

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090100114		
法人名	株式会社ケア・コスモス		
事業所名	グループホームみどり荘		
所在地	群馬県前橋市公田町1194		
自己評価作成日	平成26年2月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成26年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の「自立支援」を心がけ、できないこと所を介助するのではなく、できるところを見つけ、時間がかかっても自分の力でできるよう見守り、声かけ等して、能力を落とさないケア、支援している。職員が楽しく仕事ができれば入居者様にも反映していまうので、事業所の理念に基づき常に明るく、笑いの絶えない明るい職場・施設の雰囲気づくりを心がけている。またどうしたら入居者様が生甲斐をもち、楽しく暮せるかを職員同士で話し合いできるだけ実践している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、法人理念の見直しを機会に、管理者・全職員で理念を再検討し、「何時も笑顔を保ち、明るい環境の中でひとり一人が生き甲斐を持ち暮らせるよう支援します。」を理念に掲げ、管理者の姿勢として利用者・職員とも笑顔を保ち、関わりを意識して行っている。新人職員も多いため、職員は管理者姿勢を理解して、笑顔を保ち、明るい環境作りには楽しい会話や笑顔を心がけ実践している。また、利用者が楽しみにしている食事は、法人内の管理栄養士が献立を作成し、主に早出の調理担当者が調理している。利用者の食事の感想や残食チェックから利用者の好みを把握し、調理担当と職員で献立を検討し、家庭的な献立にして提供している。また、野菜の下搾え・下膳を利用者が職員と一緒にいき、月に2回行う行事の際には同じテーブルを囲み楽しい食事になるよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年度、事業所で理念を見直し新たに作り直しました。また、施設の理念も常に実践し、努力しています。	法人理念が見直され、事業所の理念も会議の折に検討された。理念「いつでも笑顔を決やさずに明るい環境の中でひとり一人が生き甲斐を持って暮らせる支援をする。」を掲げ、管理者・職員共に、利用者の笑顔を決やさない介護に取り組みをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公田町の夏祭りには、招待いただき何名か参加させてもらい、併設のGHとの合同納涼祭には、回覧板にて地域の方に遊びにきていただいています。	地域の夏祭りに出向いたり、法人の事業所合同の納涼祭に近隣の方や家族を招待したりしている。利用者は散歩する際に畑を耕作する方との会話程度のつきあいであったが、雪害での近隣の方と職員が道路の雪掻き作業を行うことを機会に、今後は理解者になってもらえるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議の際、認知症の事を少しでも理解してもらえるように、話をし、問い合わせには、わかりやすく答える様に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度の会議を開催し、そこでの意見をサービスの質の向上に取り込めるにしている。	2ヶ月毎に、運営推進会議は法人が運営するグループホームと合同で開催され、行事運営・感染症対策・研修報告・評価結果を話し合っている。ヨーグルトの免疫力を高める効用についての意見があり、活用している。家族の参加がし易い曜日の開催、4月から地域のメンバー交替、議題の検討により、活発化を図るよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢福祉課の方の訪問には必ず日程を合わせて同席し、推進会議時には、事業所の状況を伝え相談にのってもらっています。	生活保護について、市担当者・社会福祉協議会担当者が訪問され、報告や情報交換をしている。ケアマネージャーが市の窓口に出向き、介護申請書類・運営推進会議録を持参し、事業所パンフレットを置いてもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加し、その情報を共有できるようにしています。	身体拘束をしないケアの実践に取り組み、市主催の拘束事例検討会に参加し、職員に研修報告している。ベッド柵や精神面の拘束等振り返りミーティングで検討している。玄関の施錠はしていないが、不穏の利用者に、職員が少ない時間帯や行動が激しい時は玄関の施錠をしている。	利用者の行動や見守り等を話し合い、玄関の錠を含めての身体拘束をしないケアの実践を、引き続き検討されるよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などに参加したり、ニュースなどにも興味をもち、常に話題に出して身近な問題ととらえています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている入居者様がいらっしゃるのので普段より制度や仕組みを勉強しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ケアマネ、管理者と一緒に説明をした上で、理解、納得頂いて契約をしています。疑問や不安には、いつでも答えるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、家族の来荘時や年に何度か開催している家族会には、意見を聞けるような環境作りをしています。	玄関に意見箱を設置し、家族の面会時には管理者・ケアマネージャーが意見を出されるよう働きかけている。昨年はバーベキュー・納涼祭・クリスマス会の行事に3回家族会を行い、法人代表との話し合いを持つ機会を設け、そのなかで畳スペースの娛樂室の有効利用をすすめている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回は職員会議を行い、入居者様の事だけでなく話し合える環境を作っています。時間があれば話を聞けるようにしています。	毎月全職員会議で、ケア方法・報告を話し合い、提案を聞いている。管理者は大幅に職員の入れ替わりがあるなかで、話し易い雰囲気づくりを心がけ、個別に職員と関わっている。提案は積極的に取り上げ、入浴回数を増やすことができた。資格取得の勧奨、外部・内部研修に取り組み、就業環境の整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の事を把握し、安心して働ける環境を作るよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にも積極的に参加させ、その情報をグループ内での研修で情報のやり取りにも努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に数回交流会・勉強会に参加し、サービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の事を第一に考え、安心して生活がスタート出来るように常に話し合いを設けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にケアマネ・管理者と家族が面談し、状況把握やご要望にお答えし、安心して生活が始められるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネ、管理者が聞き取りの中で今なにが必要としているかを見極め、要望にあったサービスを提供できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできる事や、やりたい事を聞きながら、共に楽しく生活が送れるように気を配っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人の間に入り意見の調整役を務め、年に何回か家族会を開催したり、またイベントの参加を呼びかけたり絆が切れない関係作りをしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は自由に行っていると、外出も出来るだけする機会を設け馴染みの場所へ行ったり、通ったり出来るよう努めている。	面会はいつでもいいと伝えて、家族・従兄弟・親戚の方々が見えている。事業所の車で利用者の自宅近くの神社への初詣、以前住んでいた場所の周辺への外出など、利用者の馴染みの場所に出かけている。また、家族の協力を得て馴染みの床屋に散髪に出かけたり、外食・墓参に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士で、席を座って頂いてお話しして頂いたり職員が間に入っておしゃべりしたり、洗濯物を皆で一緒にたたんだり、干したり出来る事を協力してもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去、転居、死亡等で施設を去られても、現在入居の施設に訪問したり関係が続くようにつとめています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人一人の日々を観察する事で、その方の望みや意向に沿った支援を心がけています。又、定期的に対応を検討しています。	利用者の様子観察・見守りを重視し、言葉による意向の表出できない方に対応をしている。心理学を学ぶ職員の意見を聞きつつ、行動を心理面から掘り起こし試行的に対応したり、家族からの情報により検討したりして、思いや希望を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、家族からの情報や入居前の利用施設、入居時の情報を整理し基本情報やアセスメント用紙を作成。現在の生活や今後の生活への検討資料としています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的ミーティングを行い、変化は責任者からケアマネに報告。状態が変化した際の適切な対応が出来るように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	受診時は管理者が同席し、医師や看護師の意見を伺ったうえで、介護プランを作成します。毎月、モニタリングや定期的な担当者会議を開催し、職員全体による意見をまとめ、ご本人やご家族の希望を含めた介護計画書を作成しています。	面会時や電話により家族の希望を聞き、医師・看護師・福祉用具担当者等関係者の意見を基に、毎月全職員による担当者会議で話し合い、介護計画は3ヶ月毎に見直され、毎月のモニタリングも職員のミーティングで意見を聞き確認し、計画実行の詳細を支援記録に記載している。介護計画は、個人ファイルに挿み目標を意識して取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を職員内で情報共有し、対応方法等については、介護支援経過記録として書類を作成。3ヶ月に一度の計画作成に反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活での状況に合わせ、その時に一番あったケアができるよう、施設以外での専門家の意見等取り入れながら、柔軟に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の交流として、ボランティアの方やまた、納涼祭にはご近所の方に参加頂いたり、今回の大雪の際は近隣の協力の危機を回避でき、とても助かりました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の提携医の往診で適切な治療をうけている。必要な他病院への通院には家族、または管理者が付き添い、受診結果は家族に報告している。	契約時にかかりつけ医の希望を聞き、近医の協力医の説明を行い、殆どの方が協力医を受診しており、月2回往診がある。皮膚科・認知症専門医の受診時には、家族の都合により職員が同行し、家族に電話で報告している。毎月家庭へ請求書とお便りを郵送する際に、受診経過や状況も同封している。その他、週1回看護師訪問時の健康相談、毎週法人の言語療法士の嚥下指導が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回は医師の指示で看護師が訪問し、必要に応じて適切にかつ、速やかに対応してくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、出来る限り病院関係者との情報交換を密にし、退院した時に対応がスムーズにいくような関係を築いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その都度本人、家族の意見を聞きながら、事業所として出来る限りの支援を考えています。	契約時に医療連携について説明し、本人・家族の意向を聞いて同意書を作成している。身体状況の変化の際には、家族・かかりつけ医と話し合い方針を共有している。看取りの経験がない職員が多く、看取りの介護研修・勉強会を実施し、本人・家族の希望に添えるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡方法や対応方法を職員会議で話し合い、職員室に掲示してあります。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの下、年2回避難訓練を実施。施設内も防災設備を備えています。地震や災害等に備え、話し合いをするとともに、食品や飲み水を備蓄しています。	年2回消防署が立会い、夜間想定火災訓練を実施し、通報装置の確認を行っている。法人の事業所とは協力体制はとっているが、近隣宅は昼間留守の為訓練へ参加はないが、雪害時に協力し合った近隣者を中心に、参加への呼びかけを図る予定である。	事業所が地域へ貢献できる災害時協力を近隣住民に伝え、災害の避難訓練の参加を呼びかけ、地域との相互協力体制を検討されるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が入居者様を人生の先輩と敬い、その方に合った声かけや対応を心がけています。	人格を尊重し、呼称は〇〇さんとし、居室入室時は必ず声をかけ、入浴時には終わるまで風呂入口カーテンは開けず、プライバシーに配慮している。トイレは、アコーディオンドアは設置されているが現在は使われておらず、足元が見える程の暖簾を用い、利用者の安全に配慮しながら外で見守りをしている。	一人ひとりの人格尊重やプライバシーの確保の意義を確認され、声かけや対応を検討されるよう期待したい。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は自分の都合で決めるのではなく、入居者様と向き合い、思いに添えるように支援しています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なかなか難しいが、ご希望に沿えるように努力しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や天気に配慮し、汚れた時などはすぐに着替えし、人によっては買い物も同行しています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	限られた方であるが下ごしらえをお願いし、動ける多くの方は下膳は進んで協力してくれます。時々おやつ作りも一緒におこなっています。	法人の管理栄養士が献立を作成、主に食事担当調理員が調理している。利用者の食べる様子や残食から利用者の好みを把握して体調に合わせた食事を提供し、家庭的なメニューにしている。利用者は野菜の下拵え・テーブル拭き・下膳を職員と一緒にいき、月2回の行事の食事では、同じテーブルを囲み食事をしている。また、おやつ作りを一緒にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の栄養士の献立により、バランスの良い食事で、食事摂取量や水分量もシートに記載している。体調によっておかゆ、刻み食、ミキサー食などの対応もしています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、出来ない入居者様には見守り、介助を行っている。朝、寝る前には洗浄液でうがいをし、義歯の洗浄剤を使用しています。口腔用ガーゼを使っている方もいらっしゃいます。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事の前後尿意の無い方には、時間でトイレ誘導、陰部洗浄を行っています。立位の難しい方にも毎朝トイレの排泄を支援し、習慣化しています。	排泄時にチェック表に記録することで、各利用者のトイレ誘導の時間が見極められる。立位が困難な方にも、習慣的に毎朝トイレで座位になり排便を促している。夜間は個々の安全に配慮してポータブルトイレを使用の方、トイレでの排泄の自立されている方を見守る支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人個人の排泄パターンを理解し必要に応じ医師から便秘薬の処方や食事、運動、水分量にも気をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	月から土曜日まで入浴日を設け、その日の体調に合わせた対応をしています。お風呂が好きな方も多いため、日帰り温泉などの企画もしています。	月～土曜日まで入浴ができる体制になっており、概ね週3回を基本として、毎日希望する方や汚染時等に対応している。順番に配慮し、身体状況・精神状況を見極め、言葉のかけ方の工夫や翌日に変更をしている。脱衣・着衣まで一人で介助し、その折職員がじっくりと話を聞く等、入浴を楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人個人の介護を意識し、その日の体調や意思を伺って対応しています。気持ちよく眠って頂けるように、湯たんぽやエアコンの調整も配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関しては、個人の介護記録に綴じており、いつでも確認が出来るようにしています。状態の変化も見逃すこと様がないよう気をつけています。内服時は口に入るまで、見守っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来ることに目を向け、洗濯たみ、干し、モップがけ等自主的にやってくれるようになっていきます。夜、歌番組やクイズ番組を自由に見られるように対応しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に一度は外出が出来るように計画を立てています。天気の良い日には、日向ぼっこや散歩に出かけたりもしています。ご家族も食事に連れ出して頂ける時もあります。	天気の良い日に、近隣の法人の事業所まで訪問する散歩や庭先の長椅子で日向ぼっこ・庭に草花を植える等している。毎月外出を計画し、外食や季節の花見に出かけている。個別には、職員の運転する車で下着やお菓子等の買い物、面会の家族を広い道まで歩いて見送るなど対応している。その他、家族の協力でお外食や墓参に出かける等を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は基本的には職員が管理しているが、人によっては外出の際、欲しい物を自分の判断で購入したり、食べたりできるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意向を尊重し、電話する機会を設けています。年賀状も送られてくるので希望者にはお返事も出しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が一番長い時間を過ごす空間からの景色で季節が感じられ、毎日生活して行くうえでトイレや洗面台の清潔感を常に心がけ、照明も明るさが調整出来たり工夫しています。	居間兼食堂の大きな窓から利根川の河川敷やゴルフ練習場の芝生が見え、四季の移り変わりが眺められる。廊下は車椅子もすれ違いができる十分な幅があり、壁には利用者の習字作品・行事の写真・絵画が掛けられている。娯楽室にテレビ観賞の場やウッドデッキは洗濯物干しやバーベキューを行う場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは気の合う方同士で座れる様に配慮しています。共用スペースでは、自由に使える空間を確保し、思い思いに過ごしていただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや位牌、慣れ親しんだ物を持ち込んでいる方もいらっしゃいます。また、可能である事も伝えており、自分で作った作品やご家族と相談して写真を飾ったりはされています。	各居室には慣れ親しんだソファを持ち込んだり、歌の好きな方はラジカセで叙情歌や歌謡曲を聞いて過ごしている。物や置き方にこだわりのある方には特性を把握し、利用者が納得する置き方や物を用意して精神安定に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内はほぼ段差もない作りのなっており、廊下には手すりが設置してあります。トイレにも手すりがあるので、立ち上がり易くなっています。		